20231001　日本語　北九州シオン教会　主は私たちの羊飼い（詩篇23:1−6）

1"主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。
2主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。
3主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。
4たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。
5私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。
6まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。"

ハレルヤ主の御名を賛美します。
先週、私の義理の母が天に召されて妻の家に行ってきました。
金曜日が告別礼拝であり、私は昨日来ましたが、
妻はもう少し実家にとどまることになりました。

義理の母の名前は瀬下多美でした。
長野県上田市でオーダーメイド服を作る仕事を60年以上してきました。
義理の母の人生は名前のように多くの美しさをもっていました。
母は美しい服を作る方でした。
母はいつも肯定的で、相手を褒める美しい言葉をしゃべる方でした。
母は5人の子供と配偶者、16人の孫、4人の子孫がいる幸せな大家族を成し遂げました。
その家族も美しいものです。
しかし、母にとって最も美しいのは、20年前にイエス様を信じたことです。

20年前に韓国のオンヌリ教会のハ・ヨンジョ牧師から洗礼を受けました。
ハ先生は日本宣教に対する情熱がありました。
それで大阪オンヌリ教会を建て、
翌年、東京オンヌリ教会を開拓しました。
東京オンヌリ教会開拓礼拝をする日、
長野県の上田市で牧会される牧師先生が出席されました。
その牧師先生は、長野県上田市に小さな教会がありますが、
オンヌリ教会が引き受けてくださるよう願うとハ・ヨンジョ牧師に言いました。

ハ・ヨンジョ牧師はOKをしました。
ところが上田市は大都市ではなかったし…。
それで反対意見もありました。
その時、私はハ・ヨンジョ牧師を訪ねました。
ハ牧師… 上田は私の妻の実家であり、私の義理の母がおられます。
教会を開拓することを私は助けます・・と私が言いました。

その時、ハ・ヨンジョ牧師はとても喜びました。

そしてこう言われました、「上田にイ・ヨンソン牧師の義理の母の一人だけのためにも教会を立てます」。
そのようにして教会は建てられ、今は創立22年を迎えます。
そして義理の母はその教会に通いました。
そして今回愛する人々と別れを告げて天国に行きました。

伝道の書7章の言葉のように、葬儀は人間に最後があるという真実を教えます。
時間は本当に速く流れます。
その時間は年をとるほど速くなります。
また時間は止められません。
私たちはいつも人の最後を見ます。
そしていつかは私の最後も来るでしょう。
それでは、この時間の中で私たちができることは何でしょうか？

ここへの答えを詩篇23編が教えてくれています。

今日読んだ聖書を書いた人はイスラエルの有名な王であるダビデです。
彼は後にイスラエルの王になりましたが、幼い頃には元々羊飼いでした。
羊は羊飼いなしでは生きていけません。
羊は目が悪く、道もよく分からず、自分を守る武器もありません
しかし、羊には1つの素晴らしい能力があります。
自分の羊飼いの声を覚えて従うことです。
だから羊飼いが自分を呼ぶとそこに従います。
それから羊飼いは羊を導いて保護します。

ダビデは羊飼いと羊の関係を説明し、神様がどんな方であるかを語っています。

1"主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。

ダビデの偉大さは宣言することにあります。
ダビデは羊に羊飼いがどれほど重要な存在かを知っていました。
それで神様は自分にとって羊飼いだと宣言します。
これは誰でもできることです。
ところが意外に人はこう言いません。
しかし、ことばはその人の状況を変える力があります。

ずっと前、チョ・ヨンギ牧師の説教でこう言われました。
カイコはその口から絹糸を出し、それで自分の家を作ります。
人も同様に自分の口から出てくる言葉で人生の家を建てます。
口から否定的な言葉をいつもすると、否定的な人生が作られ、
口から肯定的な言葉をすると、肯定的な人生が作られ、
口で信仰の言葉を宣言すると、信仰の人生を過ごすことが出来ます。

環境と状況に応じて話すと、環境と状況に応じていく人生になり、
環境と状況が難しくて大変であっても信仰の言葉を宣言すれば、
環境と状況が信仰の言葉によって変化するのです。

ダビデは一生を苦しんで暮らしました。
幼い頃は父親に認められませんでした。
若い頃には、サウル王の嫉妬のために長期間逃亡者生活をしなければなりませんでした。
王になった後も戦争と反乱があり、
後には息子の反逆で逃げなければならない状況もありました。
しかし彼はどんな状況でもその口で神様は私の羊飼いであると告白しました。
だから私に乏しいことがないと彼は言っています。

人は通常言ったことばを繰り返して言いながら暮らします。
だから私もこう言うことができますが、通常はしません。
しかし、この時間の皆さん、
私たちはこの宣言を私の口の習慣にしましょう。
一緒に宣言しましょう。
… ..

この信仰の宣言はあなたの人生を新たに導くでしょう。

2主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。

神の導きと保護は非常に具体的です。
羊飼いは羊をいつも緑の牧場に導きます。
そこの草をすべて食べると、他の場所に移動します。
そして、草ををお腹いっぱい食べると、今度は水辺に移動します。
羊飼いはどこに草があるのか、どこに水があるのかを知っています。
それで羊は食べて飲むことを羊飼いに頼れば良いのです。

神は私たちに食べて飲むことを与えてくださいます。
イエスも新約聖書で「まず彼の国とその義を救いなさい、
そうすれば、これらすべてをあなたに加えて与えて下さる。
こう言われました。
空を飛ぶ鳥を見て、
野に咲いている花を見て…
誰もご飯を与え、水を与えて… このように気にしません。
しかし、神がその鳥を誰よりも健康にし、
その花をソロモンの栄光より美しくしてくださいます。

だからといって舞台砲で生きるという言葉ではありません。
優先順位の中で、いつも神様の御心を一番最優先にするというのです。
そうすれば、私たちが未だ考えることもできなかったことさえ、
神様がすべて準備してくださるということです。

3主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

食べて飲むことに加えて、人間にとってもっと重要なものがあります。
それは人の心と考えです。
皆さん、体が丈夫でも心が病気になれば、人は苦しみます。
今は時代が良くて食べ物、着るもの、住宅の問題はをある程度解決できます。
しかし、心が病気になると大変です。

アフリカのライオンは小さなウサギを捕まえるときにも最善を尽くします。
自然界にある生命には生命力があふれています。
ところが皮肉なことに、その生命力の源は死にあります。
ライオンはウサギを狩り、失敗したら飢えなければならず、
もし失敗し続ければ死ぬかもしれません。
それで死の恐れから生命力は湧き出ます。

人間は戦争や災難と飢饉でも生きるために全力を尽くします。
しかし人間には神様がくださった自由意志があり、
人間の心と考えは他の生き物より限りなく広く深いです。

だから人間の心と考えは本能によってのみ動くことはありません。
その心と考えが健康で生きていなければなりません。
ところが、人が創造する時、神様がその地を吹き込まれたので、
人間の霊と魂と考えは神様の影響を受けます。

だから、私の心が疲れていて、孤独で絶望的なときでも、
神様が私の心にその霊を吹き込むと、私の魂が生き返るのです。
ダビデはどれほど疲れていて、落胆し、あきらめたかったのでしょうか。
しかし、彼の心を蘇らせたのは、詩篇を通して信仰の告白をしたからです。

皆さん、この言葉も宣言です。
信仰でこの言葉を信じ、
自分の口でこのみことばを宣言する人に、神様が新しい力をしてくださいます。
みなさんがみことばを宣言しましょう。
……

4たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

先週土曜日、家内の甥子の結婚式があって関東地域に行きました。
結婚式を終えて披露宴に出席せず、義理の母のいる病院を訪れました。
健康であった義母が酸素マスクをしてほとんど話すことができませんでしたが、
意識はすべてありました。
私が行ったので、義母は私を見つめながら目で話をしているようでした。
今考えるとそれは「ありがたくてよろしくね」という意味だったと思います。

そして3日後に天に召されました。

上田オンヌリ教会でキリスト教式で葬儀を行なった。
子供、義理、嫁、孫たち…20人ほどの家族に福音を伝えました。

母は今死の陰の谷を歩いています。
そして人間は誰でもその谷を通り過ぎなければなりません。
なぜなら、罪によってこの世に死が入ったからです。
ですから、人間は一度死ぬことと死後には必ず裁きがあることが定められています。
だから誰でも一人で死陰の谷を通り過ぎなければなりません。

しかし、私たちの羊飼いになったイエス様がその谷を一緒に歩いてくださり、
私たちを命に導いてくださいます。
なぜなら、羊飼いのむちと杖が私たちを守るからです。
その主のむちと杖はまさに十字架です。

十字架を背負ったイエスは私の罪の代わりに血を流されました。
その十字架の血をあなたは信じますか？
この福音が私たちの永遠の希望です。

5私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。

それで、私たちは今、救われた者として神の国を生きる人たちです。
しかし、私たちの肉体がこの土地にいる限り、
私たちはこの世でしなければならない役割があります。
神様が召される日まで、私たちはその役割を果たさなければなりません。

ところが、肉体を持って私たちの生を生きていく中で、
サタンは私たちが神様の子どもとして生きていくのを嫌います。
どんな方法を使っても私たちをつまずかせます。

この例を一度聞いてみましょう。
戦場でけがをして足を切断した患者がいます。
その人は足がないのですが、足がかゆくて耐えられません。
こんな現象がありますよね。
足があったので、その記憶が彼を勘違いさせることです。

私たちの霊的な状況も同じです。
私たちはイエスの血を信じていつ救われましたか。
救われたのはその信じた瞬間ですね。
救いとは、罪から死から律法から救われるものです。
ですから、私たちは罪を赦されたのです。

しかし、私たちはあまりにも罪のある世界で罪の中に住んでいました。
私が信仰生活をうまくやれば赦されて救われたようですが…。
私が信仰生活を怠ると、救われなかったようです。
救いの基準は私にあるものではありません。

救いは主が私に与えてくださるのです。
私たちは信仰によって救われました。
これは永遠に変わらない事実です。

それで、サタンは私たちが救われなかったかのように私たちを欺いています。

その時、羊飼いの神様は、私たちを参加するサタンの前で私たちに大きな食事を準備してくださいます。
敵には与えません。
これは「私はあなたを愛しています」、「私はあなたを選んだ」、「あなたは正しい」というサインです。

6まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。"

皆さんに愛と恵みが満たされることを祈ります。
親が生きているとき、
親の家で寝て、
親の家でご飯を食べて、
親の家で育てられ、学校に通うとき…
私たちがその費用を支払ったわけではありません。

みんな無料で、みんな愛で、恵みでした。
その親がなくなると、そのような家が私にないというのが本当に悲しいですね。
ところで、私たちには永遠の家があります。
それは主が備えられた私たちの家です。

イエス様は私たちのために天の処所を準備しておられると言われました。
その主の家には愛と恵みが永遠です。
この言葉も私たちのように宣言しましょう。

…。

祈りましょう。